

小学生の絵画を路面に貼付し放置自転車の減少を目指します

内 容 小学生の絵画を印刷した路面シートを放置自転車が多く発生している東門前小学校前に貼付し、放置自転車の防止を図ります。小学生が描いた絵の上に自転車を放置する行為を心理的に抑制させる効果や、絵を見た住民への駐輪マナーの啓発効果により、放置自転車の減少が期待できると考えています。

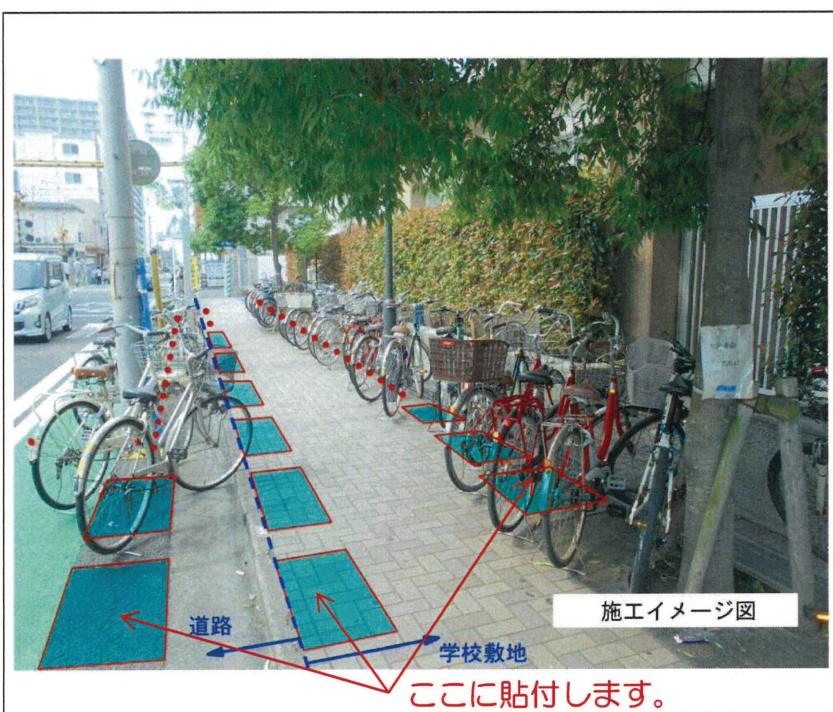
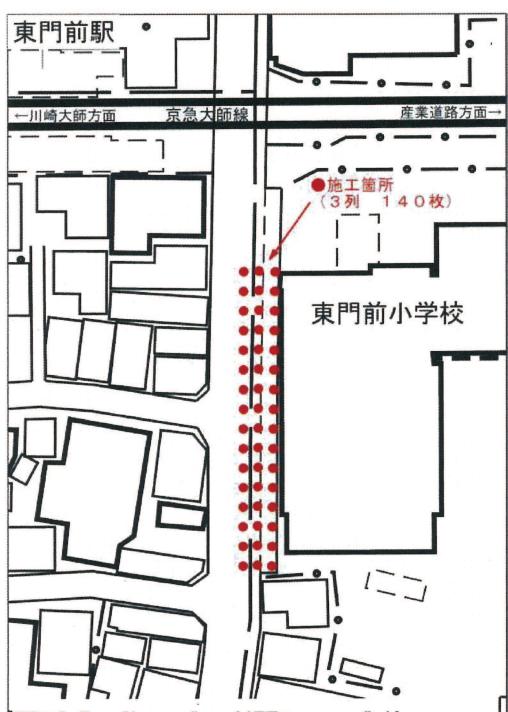
施工箇所 東門前小学校脇の学校敷地及び道路上

施工日時 平成27年9月25日（金）午後1時30分～
(短時間のセレモニーを予定しています。)
※雨天の場合は9月28日（月）に延期します。

協 力 東門前小学校6年生
全国道路標識・標示業神奈川県協会

絵のテーマ 「東門前 まちの未来」

貼付枚数 140枚（児童用126枚、啓発用14枚）



【神奈川】

児童の絵で放置自転車減らせ 川崎区の小学6年が学校前に

2015年9月29日

相次ぐ放置自転車を減らそうと、川崎市川崎区の市立東門前小学校前の路面に児童の絵を貼る取り組みが始まった。「子どもが一生懸命描いた絵の上に自転車は置けないはず」という心理作戦。二十八日には完成記念セレモニーが開かれ、児童らは「安全できれいな街になって」と願いを込めて絵を貼った。（横井武昭）

同小学校の目の前には京急大師線・東門前駅があり、区によると、学校わきに多いときは四十～五十台ほどの放置自転車が連なる。高齢者や体が不自由な人などの通行を妨げていたという。

区は、同じように放置自転車が課題となっていた大阪市や横浜市などで、路面に子どもの絵を貼ると放置が減ったという取り組みに着目。「絵を印刷した路面シートを貼れば、自転車を放置する行為を心理的に抑制でき、駐輪マナーの啓発になる」と考え、同小学校に協力を求めた。

絵を描いたのは、六年生の百二十六人。「東門前 まちの未来」を共通テーマに、公園で遊ぶ子どもたちや大好きな学校、街を走る赤い京急電車、地元にある川崎大師などを色とりどりの明るい色調で数ヶ月間かけて描いた。絵の下部には「駐輪場を利用してください」という注意書きを添え、合成ゴムを使ってシート加工した。耐久性があり、四、五年はもつという。

絵の路面シートは、横六十センチ、縦四十五センチほどの大きさ。このほかに「自転車は駐輪場へ」と書いた啓発シートも作り、計約百四十枚を小学校前の約百メートルにわたって三列に貼ることにした。

セレモニーには代表の児童らが出席し、作業員と一緒に自分たちの絵を丁寧に貼り付けていった。学校を描いた佐々木唯君（11）は「自転車がよく止まっていて汚かった。これで学校の周りや街がきれいになってほしい」と笑顔を見せた。

児童らに感謝状を贈った大谷雄二区長は「明るく楽しい絵がたくさんできた。これは市内で初めての取り組み。放置自転車がなく、皆が安全に暮らせる街になれば」と話した。



放置自転車を減らすため、自分たちで描いた絵のシートを路面に貼る児童たち=川崎区で

[検索](#)[メニュー](#)[川崎区版エリアトップへ](#)

放置自転車の減少目指す

東門前小児童の絵で

掲載号:2015年10月9日号



絵の貼り付け作業をする児童

違法駐輪を子どもの絵で減らそう——。そんな取り組みを区道路公園センター管理課が始め、先月28日には東門前小で同小6年生の絵などをプリント化した路面シート140枚を貼った。

同小周辺では放置自転車が多く、「児童が車道にはみ出して歩かなければならないので危ない」との声が市民から寄せられていた。

区では横浜市などで成果をあげている取り組みを参考に企画し、同小の協力を得て実現した。

小学生が描いた絵の上に自転車を放置する行為を心理的に抑制させる効果や、絵を見た住民が駐輪場に自転車を止めることで放置自転車の減少を期待している。

区担当者は、今後も絵や写真などを貼って放置自転車の減少を目指す取り組みを行っていくとしている。